

2. 火山の概況

(平成17年6月2日～平成17年6月8日)

十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていると推定される。

浅間山では活発な噴煙活動が継続し、微弱な火映がほぼ連日観測された。火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。火山活動度レベルは3（以下、レベルと記載）。

三宅島では多量の火山ガスの放出が継続している。

阿蘇山では、赤熱現象が観測される等、火口内の熱的な活動のやや活発な状態が続いている。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。御鉢のレベルは2、新燃岳のレベルは1。

桜島では爆発的噴火があった。レベルは2。

諏訪之瀬島では爆発的噴火が時々観測された。レベルは3。



図1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山（火山名に下線）

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	草津白根山	浅間山	三宅島	福徳岡ノ場	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
23	6/2/6/8	◆	●	●		●	●		●	●	▲	◇	◇	▲
22	5/26-6/1	●	●	●		●	●		●	●	◆	◇	◇	▲
21	5/19-5/25	●	●	●	◆	●	●		●	●	▲	◇	◇	▲
20	5/12-5/18	●	●	●	●	●	▲	●	●	◆	◇	◇	◇	◇
19	5/5-5/11	●	●	●	●	●	●		●	●	◇	◇	◆	◆

号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山(新燃岳)	霧島山(御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
23	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
22	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
21	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
20	①	①	③	①	①	③→②	①	①	②	②	②	②	③
19	①	①	③	①	①	③	①	①	②	②	②	②	③

表1 最近1か月に記事を掲載した火山（左）及び各火山のレベル（右）

注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山 ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山 ◇：その他記事を掲載した火山
- ：記事を掲載していないレベル対象火山 ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 記事は、▲、●及び◆（注1参照）に該当する火山及びレベル2以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注3 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

◆ 雌阿寒岳

7日に札幌管区気象台が実施した調査観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口の温度は、約 300℃であった¹⁾。ポンマチネシリ 96-1 火口は高温状態が続いていたが、2000年以降徐々に低下傾向が認められていた。今回の観測値は前回（2004年10月：約 340℃）よりさらに約 40℃低下し、同火口の温度としては平常時のレベルまで下がったと考えられる。

噴煙活動に特に変化はなく、火山性地震及び微動の発生状況も静穏な状態が続いている。

- 1) 赤外放射温度計による。赤外放射温度計は物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていると推定される。監視カメラ²⁾による噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で推移した。

- 2) 62-2 火口の北北西約 6 km に設置。

● 樽前山 [熱]

A 火口および B 噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

● 浅間山 [噴煙・火映・熱・地震・微動] レベル 3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、最高で火口縁上 500m まで上がった。また、微弱な火映が 4 日と 8 日を除く毎日、山麓の監視カメラ³⁾で観測された。

7 日に行った上空からの観測⁴⁾では、雲や多量の噴煙のため山頂火口内の詳細な状況は確認できなかったが、火口底中央部には昨年 9 月の噴火活動に伴い噴出したとみられる固結した溶岩が引き続き確認され、その周辺には広範囲に硫黄昇華物の付着が確認された。赤外熱映像装置⁵⁾による観測では、火口内の最高温度は 383℃ (前回観測した 2 月 9 日は 465℃) で、依然として高温状態が続いていた。

火山性地震及び微動の回数はやや多い状態が続いており、期間中それぞれ 1 日あたり 30～65 回、0～5 回であった。

- 3) 高感度カメラ。気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が山麓に設置。

- 4) 群馬県の協力により、気象庁と産業技術総合研究所が共同で実施。

- 5) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 三宅島 [火山ガス・噴煙]

7 日に上空から行った観測⁶⁾では、山頂火口内の状況は雲のため確認できなかった。火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたりに換算して 2,500～4,300 トン (前回は 5 月 24 日 4,200～5,400 トン) で、依然として多量の火山ガス放出が継続している。なお、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

期間中の火山性地震の回数は少なく、1 日あたり 2～6 回であった。火山性微動は 1 回観測された。山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、最高で火口縁上 500m まで上がった。

- 6) 警視庁の協力による。

● 阿蘇山 [赤熱⁷⁾・熱・土砂噴出・微動・地震] レベル 2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口では、赤熱現象⁷⁾の領域がやや拡大し、湯だまり量が減少する等、熱的な活動は前期間より活発になっているが、火山性連続微動は 6 日未明から振幅が小さくなった。

福岡管区气象台及び阿蘇山測候所が 2～4 日及び 8 日に実施した現地観測によると、3 日夜及び 8 日夜の観測で中岳第一火口底の北側噴気孔付近のごく一部に赤熱現象が確認され、8 日の赤熱領域は 3 日よりやや拡大していた。北側噴気孔付近の温度は 194～218℃¹⁾と高温であった。中岳第一火口内の湯だまり量は減少傾向にあったが、8 日にはそれまでの約 2 割から約 1 割に減少していた。湯だまりの色は引き続き黒灰色、表面温度は 68～71℃¹⁾と依然として高い状態で (前期間は 76℃¹⁾)、湯だまりの中央部付近で高さ約 5 m、その他で高さ 2～3 m の多数の土砂噴出が引き続き観測された。

4 月 16 日から振幅が大きくなっていた火山性連続微動は、6 月 6 日未明から振幅が小さくなった。孤立型微動の発生回数は 461 回で前期間 (554 回) よりやや減少し、火山性地震の発生回数は、5 月以

降は一週間あたり 100 回未満で推移しており、今期間は 54 回であった（前期間は 31 回）。

噴煙活動、地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

7) 赤熱現象は、地下から高温の火山ガスなどが噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。阿蘇山では、赤熱域が拡大すると、火孔が開孔し、噴火活動が活発化したことがある。

● 霧島山 [噴気] 御鉢：レベル 2（やや活発な火山活動）・新燃岳：レベル 1（静穏な火山活動）

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、監視カメラ⁸⁾による観測で、2 日に火口縁上 200m の高さの噴気が観測された。地震活動は静穏で、その他の観測データにも特に変化はなかった。

8) 御鉢火口の南西約 5 km に設置。

▲ 桜島 [噴火・爆発・降灰] レベル 2（比較的静穏な噴火活動）

今期間、爆発的噴火（以下、爆発）が 1 回観測された。爆発は 2 日 07 時 36 分に発生したが、噴煙等は夜間のため不明であった。爆発が観測されたのは今年 1 月 23 日以来であった。この爆発の他、ごく小規模な噴火は時折発生しており⁹⁾、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で、8 日に降灰量 0 g/m²が観測された¹⁰⁾。同気象台で降灰が観測されたのは今年 1 月 23 日以来であった。

地震活動等その他の観測データには特に変化はなかった。

9) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。

10) 降灰量は前日 09 時～当日 09 時の総量を観測している。0 g/m²は、1 m²あたり 0.5g 未満の微量であったことを示している。

◇ 薩摩硫黄島 レベル 2（やや活発な火山活動）

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 口永良部島 レベル 2（やや活発な火山活動）

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火・爆発・微動] レベル 3（小規模な噴火が発生） <期間外の記述を含む>

5 月 30 日（前期間）から活発であった噴火活動は 6 月 3 日まで続き、爆発的噴火が今期間も 2 日に 2 回、3 日に 1 回観測された。5 月 30 日～6 月 3 日の爆発回数は合計 20 回であった。その後、爆発は 7 日にも 2 回観測された。

今期間は天候不良等のため噴煙の状況は不明であった¹¹⁾。また、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰はなかった。

火山性連続微動が、期間の初めから 3 日朝まで断続的に観測された。

11) 噴煙の観測は、御岳の北北東約 25km の中之島に設置した気象庁の監視カメラ及び十島村役場諏訪之瀬島出張所からの報告による。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 156 号	2 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況・上空からの観測結果（161 号）及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	↓（1 日 1 回発表） 火山観測情報第 162 号	↓ 8 日 16:00	
三宅島	火山観測情報第 303 号	2 日 09:30	前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。
	↓（1 日 2 回発表） 火山観測情報第 316 号	↓ 8 日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第 29 号	3 日 11:20	やや活発な火山活動が継続（火口底の一部高温）。レベルは 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 4 号	6 日 11:10	活発な噴火活動収まる。レベルは 3。